

令和元年度

川崎市立中学校 学習診断テスト

社会科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
社会科調査委員会

社 会

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習指導要領に示されている社会科の目標および内容の、基礎的・基本的な事項について、いかに生徒に定着しているかを、観点別に調査・診断することを意図して問題を作成した。
- (2) 作問は、本市使用の教科書を中心に行った。
- (3) 出題の傾向
 - ◎第1学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、本年度4月から10月までの学習内容について出題した。
 - ◎第2学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。
 - ◎第3学年は、平成24年度に実施された学習指導要領に示されているもののうち、前年度11月から本年度10月までの学習内容について出題した。

なお、出題範囲の決定にあたり、各学校より提出された学習指導に関するアンケート調査の集計結果を参考にした。

<誤答分析の表記について>

「考察」について、80%以上を「十分」、60～79%を「一応」、35～59%を「やや不十分」、34%以下を「不十分」の言葉を用いて表記した。また、各問題の観点・内容にあわせた文章を作成し、特別な間違いについても記述した。

2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問 1	<p>●人類の出現と文明のおこり</p> <p>・文明のおこりについて、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中世の日本と世界</p> <p>・鎌倉時代後期から室町時代の政治的・文化的・経済的变化やできごとについて正しく判断し、適切に資料を選択し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本国憲法と基本的人権</p> <p>・人間を尊重する日本国憲法に関して、基本的人権や、公共の福祉などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 2	<p>●古代の日本</p> <p>・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことについて、資料を活用し、適切に判断し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●中世から近世の世界と日本</p> <p>・中世の世界のできごとについて正しく理解しているかを問う。また、中世の世界の風潮や動きと日本の歴史的事実との関連について正しく判断できるかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●私たちの暮らしと民主政治</p> <p>・私たちの暮らしと民主政治に関して、選挙制度、国会、内閣などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 3	<p>●武家政治の成立とその広がり</p> <p>・武家政権の成立とその後の武家社会の展開について、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近世の日本</p> <p>・江戸幕府成立から幕府の改革までの大まかな流れを理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●司法権の独立と裁判</p> <p>・司法権の独立と裁判に関して、裁判の種類、三審制、裁判員制度や司法権の独立などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 4	<p>●原始から古代までの人々の生活</p> <p>・原始から中世での人々の生活がどのように変化しているのか、また各時代の文化について、資料を活用し、正しく理解し、適切に判断できているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●近代の日本と世界</p> <p>・欧米諸国で近代化が進み、その影響が日本にも及んだことを理解しているかをみることをねらいとしている。また、開国から江戸幕府滅亡までの大まかな流れを理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●明治時代の日本</p> <p>・明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、日本の国際的地位が向上したことを、正しく理解しているかを問うことをねらいとしている。</p>
問 5	<p>●世界の地域構成</p> <p>・世界の地域構成に関して、緯度と経度、大洋と海洋の分布、主な国々の名称と位置などについて、資料を活用し、正しく判断し理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●北アメリカ州の地域的特色</p> <p>・北アメリカ州の地域的特色について、自然環境や産業の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第一次世界大戦の背景と影響</p> <p>・第一次世界大戦の内容と世界に与えた影響について、正しく理解しているかを問うことをねらいとしている。</p>
問 6	<p>●世界各地の人々の生活と環境</p> <p>・世界各地の人々の生活と環境に関して、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●南アメリカ州とオセアニア州</p> <p>・南アメリカ州とオセアニア州の地域的特色について、自然環境や産業の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦までの国際関係</p> <p>・第二次世界大戦までの日本の動きを、世界との関係や人々の生活と絡めて考察し、正しく理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 7	<p>●アジア州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アジア州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●日本の姿と地形</p> <p>・日本の姿と地形について、略地図と地形図を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●第二次世界大戦後の日本</p> <p>・第二次世界大戦後の日本のようすや国際社会について、正しく判断し、適切に考察し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 8	<p>●ヨーロッパ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●世界と比べた日本の地域的特色</p> <p>・世界と比べた日本の地域的特色について、資料を読み取り、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●関東地方の地域的特色</p> <p>・関東地方に関して、人口や地域でさかんな工業などの産業について資料を活用し、正しく判断しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 9	<p>●アフリカ州に暮らす人々</p> <p>・世界の諸地域に関して、アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、地域的特色について、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>	<p>●九州地方と北海道地方の地域的特色</p> <p>・九州地方と北海道地方の地域的特色について、自然環境と歴史的背景の視点で資料を活用し、正しく判断し、理解しているかを見ていることをねらいとしている。</p>	<p>●東北地方の地域的特色</p> <p>・東北地方に関して、人々の生活と産業の結びつき、伝統文化を生かした観光業の発展などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>
問 10			<p>●地形図を正しく読み取る</p> <p>・地形図に関して、地図記号、方位、縮尺、地域的特色などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとしている。</p>

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第1学年】

問題番号		趣旨		観点		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表	思・判・表	知・理				
1	(ア)	○		○	◎	人類の出現と文明のおこり	エジプト文明がおこった場所について、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	46	0
	(イ)	○			◎		メソポタミア文明の特色について、正しく理解しているかを問う。	66	1
	(ウ)	○			◎		古代の中国の特色について、正しく理解しているかを問う。	73	2
	(エ)	○		○	◎		古代の宗教のおこりについて、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	46	1
	(オ)	○		○	◎		古代ローマ帝国と交易していた国について、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	47	2
2	(ア)	○		○	◎	古代の日本	邪馬台国の当時のようすについて、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	76	1
	(イ)	○		○	◎		聖徳太子について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	67	14
	(ウ)	○			◎		鑑真について、正しく理解しているかを問う。	91	0
	(エ)	○		○	◎		大化の改新の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	68	1
	(オ)	○		○	◎		摂関政治の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	68	1
	(カ)		○	◎	○		古代の土地制度の流れについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	48	2
3	(ア)	○		○	◎	武家政権の成立とその広がり	平清盛が整備した港について、正しく判断し、資料を適切に選択しているかを問う。	68	0
	(イ)	○		○	◎		封建制度について、資料から正しく選択しているかを問う。	64	1
	(ウ)	○		◎	○		鎌倉幕府のしくみについて、正しく理解し、資料を読み取る力を問う。	55	2
	(エ)		○	◎	○		承久の乱後の幕府の勢力について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	27	31
4	(ア)		○	◎	○	原始から中世までの人々の生活 古代・中世の文化	弥生時代の生活の特徴について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	77	1
	(イ)		○	◎	○		古墳時代の文化について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	81	1
	(ウ)	○			◎		聖武天皇について、正しく理解しているかを問う。	74	1
	(エ)	○		○	◎		国風文化について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	61	3
	(オ)	○		○	◎		鎌倉時代の仏教の特徴について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	46	3
	(カ)	○		○	◎		鎌倉文化について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	39	2
5	(ア)	○			◎	世界の地域構成	陸地と海洋について、地球上の位置を資料から読み取り、正しく理解しているかを問う。	66	0
	(イ)	○			◎		世界のおもな国の位置と地域を資料から読み取り、正しく理解しているかを問う。	75	0
	(ウ)		○	◎	○		緯度・経度について読み取り、正しく判断しているかを問う。	42	0
	(エ)	○			◎		本初子午線について、正しく理解しているかを問う。	56	0
	(オ)	○			◎		統計資料を適切に読み取る力を問う。	37	4
	(カ)		○	◎	○		正距方位図法について資料を正しく読み取り、適切に判断しているかを問う。	74	1
6	(ア)	○			◎	世界各地の人々の生活と環境	標高の高い地域について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	65	1
	(イ)	○			◎		気候と伝統的な衣服について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	53	1
	(ウ)		○	◎	○		イスラム教について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	58	1
	(エ)	○			◎		気候と伝統的な住居との関係について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	60	1
	(オ)		○	◎	○		雨温図について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	80	1
	(カ)	○			◎		世界の食文化について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	79	1
	(キ)	○			◎		乾燥した地域の農業について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	53	2
	(ク)				◎				
7	(ア)	○			◎	世界の諸地域 (アジア州)	アジア州の農業と自然の関わりについて正しく理解し、資料を読み取る力を問う。	39	2
	(イ)		○	◎	○		アジア州の人口について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	83	1
	(ウ)		○	◎	○		アジア州の産業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	63	2
	(エ)	○			◎		アジア州の農業について、正しく理解しているかを問う。	34	34
	(オ)	○		○	◎		東南アジアの輸出品について、適切に判断し、正しく資料を読み取る力を問う。	17	4
	(カ)	○			◎		ASEANについて、正しく理解し、資料を読み取る力を問う。	59	7
	(キ)	○		○	◎		原油の生産国と輸入について、正しく判断し、資料を適切に読み取る力を問う。	49	7
8	(ア)	○		○	◎	世界の諸地域 (ヨーロッパ州)	ヨーロッパ州の自然環境について、資料を適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	24	2
	(イ)	○			◎		国際河川について、正しく理解しているかを問う。	56	2
	(ウ)		○	◎	○		ヨーロッパの農業について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	34	5
	(エ)		○	◎	○		EU各州における資金や移民について、資料を適切に読み取り、正しく表現しているかを問う。	22	32
	(オ)	○		○	◎		ヨーロッパの工業について、正しく判断し、資料を適切に読み取る力を問う。	46	21
9	(ア)	○		○	◎	世界の諸地域 (アフリカ州)	アフリカ州のおもな使用言語とヨーロッパとの関わりについて、適切に判断し、資料を読み取る力を問う。	44	7
	(イ)	○			◎		アフリカ州の経済について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	59	6
	(ウ)		○	◎	○		アフリカ諸国の輸出品について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	25	6

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		56.3
思考・判断・表現		54.9

2. 主な誤答と分析【社会 第1学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	(ア)	1	46	0	2	28	「文明のおこり」では、(ア) エジプト文明の場所について、正しく判断し、資料を適切に選択することが、やや不十分である。また、(エ) 古代の宗教のおこりについて、資料を適切に読み取り、正しく理解することも、やや不十分である。 日々の授業において、教科書に掲載されている世界地図を活用し、場所の確認や地域同士の関係性を読み取ることが重要である。
					3	20	
	(イ)	2	66	1	3	15	
					1	10	
	(ウ)	1	73	2	3	10	
4					9		
(エ)	4	46	1	1	20		
				3	19		
(オ)	2	47	2	1	20		
				3	16		
2	(ア)	4	76	1	2	9	「古代の日本」では、(イ) の聖徳太子や(ウ) の鑑真について、小学校での学習も踏まえ、その理解が一応できている。しかし、(カ) の古代の土地制度の流れについて、知識をもとに適切に判断することが、やや不十分である。 並び替えの問題に苦手意識をもっている生徒が多く見受けられる。日々の授業の中で、各時代の特色を他の時代と比較したり、関連付けたりすることが重要である。また、古代の日本において、土地制度がどのように変遷していき、だれが支配をしていたのかを確認することも大切である。
					1と3	7	
	(イ)	聖徳太子	67	14	聖武天皇		
	(ウ)	1	91	0	2	5	
					3	4	
	(エ)	4	68	1	2	10	
3					15		
(オ)	3	68	0	4	17		
				1	8		
(カ)	2	48	2	4	26		
				3	16		
3	(ア)	3	68	1	1	19	「武家政治の成立とその広がり」では、(イ) 封建制度について、資料から正しく選択することが、一応できている。しかし、誤答において、正答の逆を選ぶ生徒が全体の4分の1をしめている。(エ) 承久の乱後の幕府の勢力について、資料をもとにした正しい表現が、不十分である。 資料の読み取りや複数の資料を比較・関連付ける活動を通して、確実に理解を深めていくことが重要である。
					2	9	
	(イ)	1	64	1	4	26	
	(ウ)	4	55	2	2	5	
3					16		
(エ)	(承久の乱のあと、)新たに西国の土地に地頭が任命され、幕府の勢力が広まった。	27	31		2	14	
4	(ア)	2	77	1	1	9	「原始時代から中世までの人々の生活と古代・中世の文化」では、(ア) の弥生時代の生活について、資料をもとにした正しい判断が、一応できている。しかし、(オ) 鎌倉時代の仏教と(カ) 鎌倉文化の特徴についての理解が、やや不十分である。どちらも誤答を選択する割合が4分の1をしめている。 文化や宗教の特徴について、各時代の特色や時代背景、他の時代との比較を通して、理解の定着を図ることが重要である。
					3	8	
	(イ)	3	81	1	1	8	
					2	7	
	(ウ)	3	74	1	1	14	
					2	9	
(エ)	2	61	3	1	26		
				3	7		
(オ)	1	46	3	4	26		
				2	17		
(カ)	3	39	2	1	25		
				4	22		

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
5	(ア)	3	66	0	4	19	「世界の地域構成」についての問題は、(ア) (イ) (カ) について資料を正しく読み取り、その理解が一応できている。しかし、(ウ) (エ) (オ) の統計資料や緯度・経度、本初子午線の位置については、資料を正しく読み取ったり、判断したりすることがやや不十分であった。緯度と経度の意味を理解するだけでなく、各諸地域の学習の中で、緯度と経度の読み取りや統計の利用を繰り返し学習することが必要である。	
	(イ)	1	75	4	2	8		
	(ウ)	4	42	1	3	11		
	(エ)	1	56	1	4	7		
	(オ)	1	37	5	3	30		
	(カ)	2	74	1	1	14		
6	(ア)	3	65	1	3	17	「世界各地の人々の生活や環境」についての問題は、(オ) について資料をもとにして十分な判断ができた。世界各地の地形や気候との関わりから雨温図を正しく読み取っていることがわかった。しかし、(イ) (キ) の気候に適した服装や作物から生産されている地域を選択する問題では、資料を読み取り理解することがやや不十分であった。その気候や環境と、そこに適した服装や作物の関係をイラストや写真を生かして理解させたい。また(ウ) の地域と宗教を選択する問題では、資料をもとにした判断がやや不十分であった。分布を示した資料や図などを繰り返し活用することが必要である。	
	(イ)	3	53	1	4	22		
	(ウ)	1	58	1	2	16		
	(エ)	2	60	1	4	24		
	(オ)	4	80	1	2	14		
	(カ)	3	79	1	3	22		
	(キ)	2	53	2	1	14		
7	(ア)	4	39	2	2	31	「アジア州」についての問題は、全体的に理解がやや不十分であった。(イ) のアジアの人口の変化を表すグラフを選択する問題については、資料をもとにした正しい判断ができていた。しかし、(オ) の東南アジアの輸出については、正答率が17%と、資料の読み取りが不十分であった。グラフをもとに、その地域の特徴をつかんだり、また「割合」と「輸出額」の違いを意識して変化を読み取ったりする活動が必要である。(エ) のプランテーションを答える問題も、理解が不十分であった。学習した地域の特徴のまとめを文章で表すといった活動により、学習した用語を使えるようにすることが大切である。	
	(イ)	3	83	1	3	21		
	(ウ)	4	63	2	1	9		
	(エ)	プランテーション	34	35	バナナ、パイナップルなどの作物	2		4
	(オ)	2	17	4	2	15		
	(カ)	2	59	7	1	12		
	(キ)	1	49	7	3	12		
8	(ア)	3	24	5	2	33	「ヨーロッパ州」についての問題は、全体的に理解がやや不十分だった。(ア) では、気候の特徴についての理解が不十分であった。雨温図の活用や、偏西風と海流との関連を考慮して学習する必要がある。(エ) については、「最低賃金」が理解できていないことも含め、資料をもとにした判断ができていなかった。資料から考えられることを文章に表す学習を繰り返し行うことが大切である。	
	(イ)	4	56	4	4	20		
	(ウ)	1	34	7	2	24		
	(エ)	工業生産額が高く、最低賃金の高い国に、労働者が多く移動している。	22	32	1・3	8		
	(オ)	2	46	21	3	26		
9	(ア)	2	44	7	2	20	「アフリカ州」についての問題は、全体的に理解がやや不十分だった。(ウ) について、資料をもとにした判断が不十分である。品目の「割合」と「貿易額」について、意識して違いを読み取る活動が必要である。	
	(イ)	4	59	6	3	39		
	(ウ)	4	25	7	4	6		

III 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第2学年】

大問	小問	趣旨		観点		問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	思・判・表	技・理				
1	(ア)	○		○	◎	中世の日本と世界	元寇後の日本のようすについて、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	65	0
	(イ)	○			◎		室町時代の外交政策について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	56	0
	(ウ)	○			◎		室町時代の農村のようすについて、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	37	1
	(エ)	○			◎		応仁の乱の内容について理解し、その場所を正しく示す(選択)することができるかを問う。	49	1
2	(ア)	○			◎	中世から近世の世界と日本	キリスト教をわが国に伝えた人物について、正しく理解しているかを問う。	94	2
	(イ)		○	◎	○		ルターの主張内容について、正しく理解し、適切に判断(選択)しているかを問う。	56	0
	(ウ)	○			◎		コロンブスの航路について、正しく理解し、その航路を正しく示すことができるかを問う。	49	1
	(エ)	○			○		ルネサンス期の作品について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	89	0
	(オ)		○	◎	○		14~16世紀と同時期の日本の建造物について、正しく資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	32	1
3	(ア)	○			◎	近世の日本	武家諸法度について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	70	0
	(イ)		○	◎	○		江戸幕府の民衆に対する政策について、資料を適切に読み取り、身分を判断しているかを問う。	66	0
	(ウ)	○			◎		刀狩令について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	87	0
	(エ)	○			○		都市の発達について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	75	1
	(オ)		○	◎	○		鎖国政策の内容を正しく理解し、その流れを適切に判断しているかを問う。	31	1
	(カ)	○		○	◎		江戸時代の文化の特色について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	45	1
4	(ア)		○	◎	○	近代の日本と世界	独立宣言発表と同時期の日本のようすについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	34	1
	(イ)	○		○	◎		享保の改革の政策内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	37	1
	(ウ)	○			◎		産業革命期の社会のようすについて、正しく理解しているかを問う。	54	1
	(エ)	○			○		伊能忠敬の功績について、適切に資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	84	1
	(オ)		○	◎	○		不平等な内容の条約について、資料を読み取り、適切な表現をしているかを問う。	27	34
	(カ)	○			◎		開国によって開港した都市について理解し、その位置を正しく示すことができるかを問う。	31	1
	(キ)		○	◎	○		幕末の歴史の流れを正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	28	1
5	(ア)	○		○	◎	世界の諸地域(北アメリカ州)	北アメリカ州の地形について、正しく判断し、資料を適切に選択できるかを問う。	79	1
	(イ)	○			◎		アメリカ合衆国の移民について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	45	1
	(ウ)	○			◎		北アメリカ州の農業について、資料を適切に読み取る力を問う。	84	1
	(エ)	○			◎		アメリカ合衆国の工業について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	42	1
6	(ア)	○			◎	世界の諸地域(南アメリカ州・オセアニア州)	南アメリカ州の地形について、正しく理解しているかを問う。	59	1
	(イ)	○			◎		モノカルチャー経済について、資料を適切に読み取る力を問う。	85	1
	(ウ)	○			◎		時差の計算について、正しく理解し、計算できるかを問う。	46	2
	(エ)	○			◎		オーストラリアの歴史について、正しく理解しているかを問う。	48	1
	(オ)		○	◎	○		オセアニア州の気候について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	31	1
	(カ)		○	◎	○		南アメリカ州やオセアニア州の鉱産資源について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	79	1
7	(ア)	○			◎	日本の姿と地形	日本の領域について、正しく理解し、資料を適切に選択できるかを問う。	36	1
	(イ)	○			◎		日本の領土問題について、正しく理解しているかを問う。	77	1
	(ウ)	○			◎		都道府県や県庁所在地の位置について、正しく理解し、資料を適切に選択できるかを問う。	56	2
	(エ)		○	◎	○		方位・標高・縮尺について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	47	2
	(オ)		○	◎	○		地図記号について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	61	3
8	(ア)	○			◎	世界と比べた日本の地域的特色	日本の地形について、正しく理解しているかを問う。	41	31
	(イ)	○			◎		地形や土地利用について、正しく理解し、資料を適切に選択できるかを問う。	79	2
	(ウ)		○	◎	○		日本の自然災害について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	77	2
	(エ)		○	◎	○		人口ピラミッドの読み取りについて、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	75	2
	(オ)	○			◎		日本の産業別人口の割合について、資料を適切に読み取る力を問う。	83	2
	(カ)		○	◎	○		近郊農業について、資料を読み取り、適切に表現できる力を問う。	29	26
	(キ)		○	◎	○		日本の輸出入について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	76	12
9	(ア)		○	◎	○	日本の諸地域(九州地方と北海道地方)	九州地方の気候について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	60	3
	(イ)	○			◎		九州地方の地形について、正しく理解しているかを問う。	66	3
	(ウ)		○	◎	○		九州地方の工業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	75	4
	(エ)	○		○	◎		北海道の気候について、正しく判断し、資料を適切に読み取る力を問う。	55	4
	(オ)		○	◎	○		北海道を訪れる観光客について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	79	5

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	61.4
思考・判断・表現	53.5

2. 主な誤答と分析【社会 第2学年】

(1) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
1	(ア)	4	65	0	3 1	16 10	「中世の日本と世界」についての問題では、全体的に正答率が51%とやや不十分であった。 特に、(ウ)では正答率が37%とやや不十分であり、農村のようすを資料より読み取る力が不十分な点と、他の時代のように混同している点があげられる。暮らしや生活習慣に関する資料を活用した授業展開が必要である。
	(イ)	2	56	0	3 1	37 4	
	(ウ)	3	37	1	4 1	27 24	
	(エ)	2	49	1	3 1	27 14	
2	(ア)	ザビエル	94	2	イエス=キリスト カタカナ表記の誤り、判読不能		「中世から近世の世界と日本」についての問題では、(ア)や(エ)のような基礎的な内容の理解は十分できている。しかし、大問のねらいである、中世の世界の風潮や動きと日本の歴史的事項との関連を正しく判断できるかをみる(オ)の問題では、同時期の日本の建造物を適切に判断する力は、不十分であった。日本と世界各地の動きを、年表等を活用して、同じ時間軸で見つめる機会を設けることが求められる。
	(イ)	4	56	0	2 1	23 11	
	(ウ)	2	49	1	1 3	25 19	
	(エ)	3	89	0	4 1	5 4	
	(オ)	2	32	1	1 4	37 17	
3	(ア)	4	70	0	2 1	13 10	「近世の日本」についての問題では、(ウ)の刀狩令の資料を読み取る力は十分であるといえる。江戸時代の基本的な政策への理解は一応できているものの、(オ)の鎖国政策の内容とその流れを問う問題では、正答率が31%と不十分であった。歴史的な事象を論理的につなげていったり、歴史の流れを大きくつかんだりする学習場面を設定することが必要である。(カ)の問題についても正答率が45%とやや不十分であった。各文化の特色を、文章や写真資料から考える活動が必要である。
	(イ)	1	66	0	3 2	16 16	
	(ウ)	2	87	0	1 4	6 3	
	(エ)	3	75	1	1 4	14 5	
	(オ)	1	31	1	2 3	30 21	
	(カ)	3	45	1	1 2	24 15	
4	(ア)	2	34	1	3 4	34 17	「近代の日本と世界」についての問題では、全体的に正答率が42%とやや不十分であった。(キ)の幕末期の歴史の流れをとらえる問題については、正答率が28%と不十分であり、事象を並び替える問題に対して苦手な傾向が今回も現れている。やはり、開国から江戸幕府滅亡までの期間を大きくとらえ、年表を活用し、事象の因果関係を考え、時代の移り変わりをとらえる授業展開をはかる必要がある。 また、(カ)のようなできごとに関係の深い場所を地図で示す力も不十分であることから、歴史的な分野の学習でも地図を活用する機会を積極的に設けていく必要がある。
	(イ)	4	37	1	2 1	23 21	
	(ウ)	1	54	1	2 4	27 9	
	(エ)	3	84	1	1 2	6 5	
	(オ)	欧米諸国が、アジア諸国に不平等な内容の条約を結ばせた点。	27	34			
	(カ)	1	31	1	3 4	34 22	
	(キ)	3	28	1	2 1	34 19	

(2) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
5	(ア)	3	79	1	1 2	9 6	「北アメリカ州」についての問題については、農業について資料を正しく読み取ることが、十分にできていた。しかし、工業についての知識をもとにして、資料を読み取ることがやや不十分であった。グラフや資料から工業分布を読み取るだけでなく、その背景や流通システム、人々の暮らしなどを追究させることが大切である。
	(イ)	1	45	1	3 4	25 16	
	(ウ)	4	84	1	2 1	8 4	
	(エ)	2	42	1	1 3	38 11	
6	(ア)	2	59	1	1 3	24 12	「南アメリカ州とオセアニア州」についての問題は、ブラジルの輸出品の変化について資料を正しく読み取ることが十分にできていた。しかし、シドニーの雨温図を問う問題の正答率は不十分であった。南半球の温帯の気候は日本と逆になることを、写真などを提示して理解させた後、雨温図で確認することや、南半球の地域を学習する際に常に雨温図を確認することが大切である。
	(イ)	4	85	1	3 2	8 4	
	(ウ)	1	46	2	2 3	22 20	
	(エ)	3	48	1	2 1	19 16	
	(オ)	1	31	1	2 3	43 16	
	(カ)	1	79	1	4 3	9 6	
7	(ア)	2	36	1	3 4	48 10	「日本の姿と地形」に関する問題は(イ)の領土問題の問いに関しては一応できていた。しかし、領海の範囲を問う(ア)の問題は正答率36%とやや不十分であった。また、地形図を読み取る(エ)の問題も正答率47%とやや不十分であった。地形図の授業では、身近な地域の地形図を用いて、地図記号の理解や縮尺のしくみなどをイメージさせながら学習を進めることが大切である。
	(イ)	1	77	1	2 3	9 7	
	(ウ)	2	56	2	4 3	16 16	
	(エ)	3	47	2	1 2	20 17	
	(オ)	1	61	3	4 2	17 12	
8	(ア)	フォッサマグナ	41	31	カルデラ		「世界と比べた日本の地域的特色」についての問題は、人口や資源・エネルギーと産業に関しては、一応の理解がみられた。しかし、近郊農業のしくみを説明する(カ)の問題は正答率が不十分であった。近郊農業や促成栽培などは、その土地や気候に合わせて行われていることを理解させるとともに、この後学習する「日本の諸地域」での学習につなげていきたい。
	(イ)	4	79	2	1 2	11 5	
	(ウ)	3	77	2	1 4	9 7	
	(エ)	2	75	2	3 4	14 5	
	(オ)	3	83	2	1 2	6 5	
	(カ)	大都市と距離が近いので、新鮮な状態で農産物が届けられるから。	29	26			
	(キ)	4	76	12	3 2	6 4	
9	(ア)	1	60	3	3 2	18 11	「自然環境からみた九州地方」「歴史的背景からみた北海道地方」に関する問題は、全体的に一応の理解は見られた。「自然環境からみた九州地方」では、地形や気候が人々の生活と産業とが大きく関わりがあることを学習することが大切である。また「歴史的背景からみた北海道地方」でも、気候や地形から第3次産業がさかんでいることを、既習の知識を活用して考えることが大切である。
	(イ)	4	66	3	1 3	20 6	
	(ウ)	3	75	4	2 1	9 7	
	(エ)	4	55	4	2 3	18 12	
	(オ)	2	79	5	3 1	7 5	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【社会 第3学年】

問題番号	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率			
	大問	小問	知・技	思・判・表	思・判・表					技	知・理	
1		(ア)		○	◎	○	日本国憲法と基本的人権	憲法改正の手続きについて、その仕組みを正しく理解し、判断しているかを問う。	85	1		
		(イ)	○			○		◎	基本的人権について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	73	4	
		(ウ)		○	◎			○	平等権について、正しく理解し、判断しているかを問う。	90	2	
		(エ)	○			○		◎	社会権について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	98	0	
		(オ)	○			○		◎	男女雇用機会均等法について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	83	1	
		(カ)	○			○		◎	新しい人権について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	97	0	
		(キ)		○	◎			○	公共の福祉について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	23	22	
2		(ア)		○	◎	○	私たちの暮らしと民主政治	選挙制度の課題について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	63	0		
		(イ)	○			◎		◎	常会(通常国会)について、正しく理解しているかを問う。	82	1	
		(ウ)	○					◎	参議院について、正しく理解しているかを問う。	62	0	
		(エ)		○	◎			○	内閣の仕事について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	54	1	
3		(ア)		○	◎	○	司法権の独立と裁判	刑事裁判について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	89	0		
		(イ)	○					◎	◎	三審制について、正しく理解しているかを問う。	81	1
		(ウ)		○	◎			○	◎	裁判員制度について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	93	0
		(エ)	○			◎		○	◎	国民審査について、正しく理解し、資料を適切に読み取っているかを問う。	77	1
4		(ア)	○			◎	明治時代の日本	明治初期の様子について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	80	0		
		(イ)	○			○		◎	自由民権運動の内容について、資料を適切に読み取り、正しく理解しているかを問う。	75	1	
		(ウ)	○					◎	◎	大日本帝国憲法の内容を正しく理解しているかを問う。	69	0
		(エ)	○			○		◎	◎	三国干渉の内容について、資料を読み取り、理解しているかを問う。	62	1
		(オ)		○	◎			○	◎	日清戦争から韓国併合における経緯について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	51	0
		(カ)	○			○		◎	◎	わが国における条約改正について、正しく理解しているかを問う。	69	1
5		(ア)		○	◎	○	第一次世界大戦の背景と影響	第一次世界大戦について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	52	0		
		(イ)		○	◎	○		◎	米騒動について、資料を読み取り、適切に判断しているかを問う。	67	13	
		(ウ)	○			○		◎	◎	アジアの民族運動について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	80	0
		(エ)	○			○		◎	◎	普通選挙法の内容について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	46	1
		(オ)		○	◎			○	◎	文化の大衆化について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	65	0
6		(ア)	○			◎	第二次世界大戦までの国際関係と日本	世界恐慌に対する各国の対応について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	73	1		
		(イ)	○			◎		◎	昭和初期における中国のできごとについて、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	67	0	
		(ウ)		○	◎			○	◎	昭和初期における日本のできごとについて、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	46	1
		(エ)	○			○		◎	◎	太平洋戦争開戦に関する資料を読み取り、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	83	0
		(オ)	○			○		◎	◎	太平洋戦争中の日本国内のようすについて、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	81	1
		(カ)	○			○		◎	◎	原子爆弾について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	92	0
7		(ア)	○			◎	第二次世界大戦後の国際関係と日本	日本の民主化政策について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	69	2		
		(イ)	○			◎		◎	日本の独立回復と安全保障条約について、正しく理解しているかを問う。	58	14	
		(ウ)	○			○		◎	◎	朝鮮戦争が日本に与えた影響について、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	63	1
		(エ)		○	◎			○	◎	戦後の日本と世界との関係について、正しく理解し、適切に判断しているかを問う。	39	0
		(オ)	○			○		◎	◎	冷戦期の世界のできごとについて、適切に判断し、正しく理解しているかを問う。	39	1
		(カ)		○	◎			○	◎	石油危機について、資料を適切に読み取り、正しく判断しているかを問う。	84	0
8		(ア)		○	◎	○	日本の諸地域(関東地方)	関東地方の人口について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	83	1		
		(イ)	○			○		◎	◎	過疎について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	74	0
		(ウ)		○	◎			○	◎	関東地方の工業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	70	1
		(エ)	○			○		◎	◎	関東地方の農業について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	86	0
9		(ア)	○			◎	日本の諸地域(東北地方)	果樹栽培について、正しく理解し、資料を適切に読み取る力を問う。	77	1		
		(イ)	○			○		◎	◎	伝統行事について、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う。	89	0
		(ウ)		○	◎			○	◎	東北地方の工業について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	83	1
10		(ア)	○			◎	地形図の利用	新旧の地形図を比較し、土地利用を資料から適切に読み取る力を問う。	70	0		
		(イ)		○	◎			○	◎	縮尺について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。	83	1
		(ウ)	○			○		◎	◎	地形図を適切に読み取っているかを問う。	86	0

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		74.7
思考・判断・表現		64.8

2. 主な誤答と分析【社会 第3学年】

(1) 公民的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
1	(ア)	3	85	1	1 2	8 2	「人間を尊重する日本国憲法」についての問題は、全体的に一応の理解はみられた。特に(エ)の教育を受ける権利と(カ)の環境権についての資料を見て答えることは、十分できている。しかし、(キ)の公共の福祉についての論述では、指定されている語句を使用しているが、公共の福祉が何を制限しているかが不明確であった。公共の福祉は人権と人権のぶつかり合いを調整するために大事な役割を果たしていることを具体的な事例を用いて授業で考えさせたい。また、22%が無答となっていたので、例えば、日本国憲法を踏まえて、裁判の結果について考えさせ、その内容を文章記述させるといふ授業も行いたい。
	(イ)	基本的人権	73	4			
	(ウ)	1	90	2	3 2	6 2	
	(エ)	2	98	0	3	2	
	(オ)	4	83	1	3 1	14 2	
	(カ)	4	97	0	2 1	2 1	
	(キ)	公共の福祉のためならば、住民の居住の自由は制限される場合があるから。	23	22			
2	(ア)	1	63	0	3 2	26 6	「民主主義と日本の政治」についての問題は、全体的に一応の理解はみられた。特に(イ)の常会(通常国会)についての理解は、十分にできている。しかし、(エ)の内閣の仕事についての理解は、やや不十分である。法律ができるまでの流れの資料を用い、法律案の提出と法律案の審議や法律の制定の違いを明確にさせたい。
	(イ)	2	82	1	3 1	9 6	
	(ウ)	3	62	0	1 4	19 16	
	(エ)	1	54	1	2 4	16 15	
3	(ア)	1	89	0	2 3	8 3	「司法権の独立と裁判」についての問題は、全体的に十分な理解がみられた。特に(ア)の刑事裁判の資料を読み取り、正しく判断する問題や(ウ)の裁判員制度の資料の読み取りは十分できている。ただし、(エ)の国民審査の資料を読み取る問題では17%が選挙と答えている。三権分立のしくみの資料を用いて国民の意思表示の仕方について理解させたい。
	(イ)	2	81	1	1 3	10 5	
	(ウ)	3	93	0	4 2	4 2	
	(エ)	4	77	1	3 2	17 4	

(2) 歴史的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
4	(ア)	3	80	0	4	11	明治時代の日本についての問題は、(ア)については十分できている。しかし、(オ)の日清戦争から韓国併合における経緯について、事象を並べかえる問題であったが、判断がやや不十分である。日清戦争から日露戦争、韓国併合における日本と諸外国との関係について、年表を活用し、因果関係を考えることが必要である。
	(イ)	4	75	1	2	8	
	(ウ)	1	69	0	1	10	
	(エ)	2	62	1	2	7	
	(オ)	3	51	0	4	14	
	(カ)	4	69	1	2	10	
5	(ア)	2	52	0	3	23	第一次世界大戦の背景と影響についての問題において、(ウ)のアジアの民族運動については理解が十分できている。しかし、(ア)第一次世界大戦については、正答率が52%とやや不十分であった。また(エ)の普通選挙法の内容を問う問題では、23%が(イ)の日本国憲法で認められた内容を答えていた。第一次世界大戦と第二次世界大戦の内容を混同している様子がみられる。それぞれの特色や世界各国への影響、その後の歴史の流れ等を理解する必要がある。
	(イ)	シベリア出兵の影響によって、米価が高騰した(から。)	67	13	1	17	
	(ウ)	4	80	0	2	12	
	(エ)	3	46	1	1	6	
	(オ)	1	65	0	2	23	
6	(ア)	2	73	1	1	16	第二次世界大戦の背景と影響についての問題においては、(カ)の原子爆弾の投下された場所については十分理解できている。しかし、(ウ)の昭和初期の出来事についての並べかえは正答率が46%とやや不十分であった。日本経済の不景気が深刻になる一方で、軍部が次第に大きくなっていった様子について、当時の社会状況と関連付けて理解する必要がある。
	(イ)	1	67	0	4	11	
	(ウ)	3	46	1	2	20	
	(エ)	4	83	0	4	18	
	(オ)	1	81	1	2	11	
	(カ)	2	92	0	1	4	
7	(ア)	4	69	2	4	9	第二次世界大戦後の国際関係と日本についての問題では、(エ)の冷戦期の世界のできごとについて、判断がやや不十分である。日本と世界の情勢を関連付けて把握させる必要がある。また(オ)の冷戦後の事象について理解が不十分であった。冷戦から冷戦後の世界については、変動する国際社会を大きくとらえるため、年表の活用や、現在起きている事象との関連付けなどを行うことが大切である。
	(イ)	サンフランシスコ	58	14	3	6	
	(ウ)	2	63	1	3	28	
	(エ)	4	39	0	1	4	
	(オ)	3	39	1	1	38	
	(カ)	1	84	0	3	13	

(3) 地理的分野

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
8	(ア)	3	83	1	1	10	人口の視点からみた関東地方についての問題は、全体的に一応の理解はみられた。特に、(エ)の「関東地方の農業」の資料を読み取り、正しく判断する問題は十分できていた。しかし、(ウ)の「関東地方の工業」の二つの資料を関連付けて読み取る問題では30%が誤答である。授業において複数の資料を関連付けて読み取るということも行っていきたい。
					2	5	
	(イ)	4	74	0	3	18	
					2	6	
	(ウ)	2	70	1	3	14	
					1	10	
(エ)	1	86	0	3	9		
				2	4		
9	(ア)	4	77	1	1	8	生活・文化の視点からみた東北地方についての問題は、全体的に十分な理解がみられた。特に、(イ)の東北地方の伝統行事についての資料を読み取り、正しく判断する問題は十分できている。今後も日本の伝統行事について、その背景や人々の願い等を関連付けて学習することが必要である。
					2	7	
	(イ)	1	89	0	2	7	
					3	3	
	(ウ)	3	83	1	2	10	
					1	3	
10	(ア)	2	70	0	4	14	身近な地域の調査についての問題は、全体的に一応の理解がみられた。しかし、(ア)の新旧の地形図の比較から土地利用を読み取る問題では、正答率がやや低かった。授業で地図を積極的に活用し、地図記号に慣れ親しむようにしたい。
					1	8	
	(イ)	3	83	1	4	7	
					2	6	
	(ウ)	2	86	0	3	5	
					4	5	

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

今年度も、教科書の内容を中心とした基礎的・基本的な内容を問う問題を出題した。「知識・技能」の観点では、重要な用語の確実な定着を確認するとともに、様々な資料から正確に情報を読み取れることを意識した。「思考・判断・表現」の観点では、複数の資料を活用して正しい情報を取捨選択する力を問うことを心がけた。

結果を見ると、昨年度に比べ3年生の「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率が上昇した。特に「思考・判断・表現」は、10%以上上昇している。2年生の「思考・判断・表現」の正答率は上昇しているが、「知識・技能」については低下した。1年生の「知識・技能」「思考・判断・表現」の正答率がそれぞれ5%以上低下した。1年生では、さらなる基礎基本を丁寧に指導する必要がある。論述問題の正答率は、昨年度と比較して低くなっている。特に、1年生の歴史では、25%以上正答率が低くなった。どの学年も昨年度と同様に「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」よりも低い傾向にあった。

また、全学年で無答率が増加傾向にある。特に、3年生での無答率が高くなった。さらに、記述の無答率は、全体的に昨年度より高くなった。無答率の改善のために、事象の原因や背景、意義を問い、生徒が自らの考えを表現する学習が求められる。

2. 分野ごとの考察

(1) 歴史的分野

① 第1学年

「文明のおこり」では、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。古代の中国の特色を選ぶ問題は、一応できていた。しかし、エジプト文明の場所を選ぶ問題や古代の宗教のおこりについては、理解がやや不十分であった。

「古代の日本」では、大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開されたことについて、資料を活用し、適切に判断し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。聖徳太子や鑑真の功績について、一応の理解ができていた。しかし、古代の土地制度の流れについて、正しい判断をする問題がやや不十分であった。

「武家政権の成立とその後の武家社会の展開」については、資料を活用し、正しく理解しているかをみることをねらいとして出題した。封建制度の資料を正しく選択する問題は、一応できていた。しかし、正答と内容が真逆になっている誤答を選ぶ生徒が、全体の4分の1をしめていた。また、承久の乱後の幕府の勢力を読み取る論述問題では、複数の資料を比較・検討し、自分の言葉で表現する力が不十分であった。

「原始から中世までの人々の生活と古代・中世の文化」では、各時代の生活がどのように変化しているのか、また各時代の文化について、資料を活用し、正しく理解し、適切に判断できているかをねらいとして出題した。弥生時代の生活についての判断を問う問題は、一応できていた。しかし、鎌倉時代の仏教と鎌倉文化の特色についての理解が不十分であった。

全体を通し、小学校の既習事項など、基礎的・基本的な事項についての正答率は高かったものの、資料を活用して解答を導き出すことや、時代の流れや各時代の特色について他の時代と違いを明らかにすることが不十分であった。今後は、歴史の大きな流れを捉えさ

せるために、歴史的事象の因果関係をより明らかにしながら授業づくりを行い、また複数の資料を比較・考察する活動を通して、さらに理解を深めていくことが大切であると考えられる。

②第2学年

「中世の日本と世界」については、できごとや農村のようすに関する歴史資料で、鎌倉時代後期から室町時代の政治的・文化的・経済的变化やできごとについて適切に判断し、内容を正しく理解しているかを問う問題を出題した。農村のようすを資料から読み取る力が不十分な点と、他の時代のようにとを混同している点があげられる。

「中世から近世の世界と日本」については、カード形式の資料をもとに、中世から近世にかけての世界のできごと、および、中世の世界の動きと日本の歴史的事項との関連について、正しく判断でき、理解しているかを問う問題を出題した。この年代と同時期の建造物を適切に判断する力は不十分であった。コロンブスの航路を地図上から判断する力もやや不十分であった。

「近世の日本」については、レポート形式の資料をもとに、江戸幕府成立から幕府の改革までの大まかな流れを理解しているかを問う問題を出題した。江戸時代の基本的な政策の理解は一応できているものの、鎖国政策の内容とその流れをとらえることが不十分であった。また、元禄時代の特色の理解についてもやや不十分であった。

「近代の日本と世界」については、略年表と資料をもとに、欧米諸国で近代化が進み、その影響が日本にも及んだことを理解しつつ、開国から江戸幕府滅亡までの大まかな時代の流れを理解しているかを問う問題を出題した。全体的にやや理解が不十分であった。特に、幕末期の歴史の流れをとらえる問題については不十分であり、事象を並び替える問題への苦手意識が今回も明確に現れている。また、歴史的事象やできごとに関係の深い場所を地図で示す力も不十分であった。

全体を通して、並び替えや同時期の歴史的事象を選択するなどの問題に関して苦手意識を持っている生徒が多いようである。歴史の大きな流れをつかむことができるよう、単元を通して考えていく課題を設定し、追究、解決する授業展開が必要である。また、歴史的分野の学習でも地図を活用する機会を今後の学習活動で設定する必要がある。日頃から資料に触れる機会を増やしていくことだけでなく、地図帳の活用も重視せねばならない。

③第3学年

「明治時代の日本」については、略年表や資料をもとに、明治時代の日本の政治的・外交的变化やできごとについて、正しく理解しているかを問う問題を出題した。「明治初期の様子」については、判断が十分であった。また、「日清戦争から韓国併合における経緯」については判断がやや不十分であった。

「第一次世界大戦と日本」については、ノートをもとに、第一次世界大戦の背景とその影響や大正期の文化を正しく理解し判断しているかを問う問題を出題した。「第一次世界大戦」については、理解がやや不十分であった。「アジアの民族運動」については理解が十分であった。

「第二次世界大戦までの国際関係と日本」については、会話文をもとに、第二次世界大戦までの国際関係や日本の出来事について考え、正しく理解しているかを問う問題を出題した。「太平洋戦争中の日本国内のようす」について理解が十分であった。また「原子爆弾の投下された場所」についての理解も十分できている。しかし、「昭和初期における日本のできごと」については、判断がやや不十分な点がみられた。

「第二次世界大戦後の国際関係と日本」については、カードをもとに、戦後の日本の様子や国際社会の様子についての知識をもとに、正しく判断しているかを問う問題を出題した。「石油危機」については、判断が十分であった。しかし「戦後の日本と世界の関係」については、その判断が不十分であった。また、「冷戦期の世界のできごと」については理解が不十分であった。

全体を通して、並びかえなどの問題に関して苦手意識をもっている生徒が多いようである。歴史的事象の因果関係を明確にし、時代の流れを大きくつかむことが重要である。

(2) 地理的分野

① 第1学年

「世界の地域構成」では、大陸と海洋の分布、緯度と経度、北半球と南半球では季節が違ふことなどについて、資料を読み取り、正しく理解しているかを問う問題を出題した。緯度と経度を世界地図から読み取る問題では、正答率が31%と不十分であった。普段の授業から地図に慣れ親しみ、地図を活用して緯度と経度を読み取る時間を設定することが必要である。

「世界各地の人々の生活と環境」では、世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考え、資料を適切に読み取っているかを問う問題を出題した。乾燥した地域の雨温図の読み取りは、十分にできている。標高が高い地域の特色については、アルパカが人々の生活に重要であることを資料から考え、内容の理解に努めることが大切である。また、スコールについては、言葉の意味だけでなく、気候や人々の生活などと関連付けて理解させることが重要である。

「世界の諸地域」では、アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州の地域的特色について考え、資料を適切に読み取っているかを問う問題を出題した。アジア州に関しては、全体的に一応の理解がみられた。ヨーロッパ州では、自然環境とEUの特色についてやや理解が不十分であった。自然環境では国際河川のライン川が流域の都市を結ぶ交通路として、重要な役割を果たしていることを資料から考えさせた。論述問題は、3つの資料を比較、関連させてはいるが、問題に沿った答え方が十分でなかったため、正答率がやや低かった。EUの利点を問う問題は正答率が35%であった。利点について、イラストや資料を交えながらその特徴をつかむことが大切である。アフリカ州では、全体的に一応の理解がみられた。資料を読み取ることはできているが、サハラ砂漠の位置やモノカルチャー経済の特徴について十分に理解していないところがあるので、地図帳やグラフなどを活用して内容の理解に努めることが必要である。

全体を通して、資料を読み取ることはできるが、身に付けたものを関連付けて判断することが必要である。地形や気候、人々の生活や文化などを相互に関連付けて、地域的特色を大きく捉えることが大切である。また、緯度や経度の理解については、学習課題の追究、解決に向けて地図を活用する学習活動を繰り返し、地図に慣れ親しむことが必要である。普段の授業から資料と社会的事象や地域的特色を照らし合わせながら理解していくことが大切であると考えられる。

② 第2学年

「世界の諸地域」では、「北アメリカ州」「南アメリカ州」「オセアニア州」を取り上げ自然環境や産業の視点で資料を活用し、地理的事象を正しく判断し、理解しているかをねらいとして出題した。

「北アメリカ州」では、農業に関する問題は十分にできていた。また「南アメリカ州」では、ブラジルに関する貿易の変化を捉える問題は十分にできていた。さらに、「南アメリカ州」や「オセアニア州」の鉱産資源に関する問題も十分にできていた。

しかし、「オセアニア州」の気候を問う問題については、正答率が不十分であった。日本と季節が逆であるということを雨温図で判断することが難しかったようである。

「日本の姿と地形」では、略地図や地形図を読み取り正しく判断し、理解しているかをねらいとして出題した。日本が抱えている領土問題に関する問題は一応の理解がみられた。しかし、領海の範囲を問う問題や地形図を読み取る問題に関してはやや不十分であった。

世界と比べた日本の地域的特色については、日本の人口構造の変化を人口ピラミッドから読み解く問題や、産業構造の変化を資料から読み取る問題に関しては一応できていた。しかし、近郊農業のしくみを説明する問題に関しては、不十分であった。近郊農業や促成栽培などは、その土地や気候に合わせて行われていることを理解させるとともに、この後学習する「日本の諸地域」での学習につなげていきたい。

「自然環境からみた九州地方」「歴史的背景からみた北海道地方」に関する問題は、全体的に一応の理解は見られた。「自然環境からみた九州地方」では、地形や気候が人々の生活と産業とが大きく関わりがあることを学習することが大切である。また「歴史的背景からみた北海道地方」でも、歴史的背景と気候や地形を関連付けて、第3次産業がさかんであることを学習することが大切である。

全体的に、グラフや資料を読み取る力については定着していると思われる。しかし、雨温図の読み取りの問題、土地や気候と産業との結びつきを問う問題などはやや不十分であった。地理的分野の授業では、地形や気候などの自然環境が人々の生活や産業に大きな影響を与えていることを、各単元で横断的に学習することが必要である、また、さまざまな資料や写真などを読み取る機会を積極的につくり、社会的事象と照らし合わせながら理解することが大切である。

③第3学年

人口の視点からみた「関東地方」を取り上げ、人口や地域でさかんな工業などの産業について資料を活用し、正しく判断しているかをみることをねらいとして出題した。全体的には一応の理解はできていた。しかし、(ウ)は二つの資料を合わせて判断する問題であったが、やや正答率が低かった。

また、生活・文化の視点からみた「東北地方」を取り上げ、人々の生活と産業の結びつき、伝統文化を生かした観光業の発展などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的に十分な理解がみられており、特に(イ)の東北地方の伝統行事について資料を読み取り、正しく判断する問題は正答率が89%と高かった。

「身近な地域の調査」については、地図記号、方位、縮尺、地域的特色などについて、資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。(イ)の縮尺、(ウ)の地形図の読み取りは十分な理解がみられた。しかし、新旧の地形図の比較から土地利用を読み取る問題は正答率がやや低く、地図記号を理解できていない傾向がみられるので、普段の授業において積極的に地形図を活用することが大切である。

全体を通して、基礎的な知識は定着していると思われる。しかし、複数の統計資料を関連づけて解答したり、新旧の地形図を比較から読み取ったりする問題はやや正答率が低くなっている。地理的分野の授業では様々な事象を関連付け、複数の資料から読み取りながら、判断する機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

(3) 公民的分野

「人間を尊重する日本国憲法」について、基本的人権や、公共の福祉などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。特に(ウ)の平等権や(エ)の社会権、(カ)の新しい人権といった基本的人権についての問題はいずれも正答率が90%以上であり、十分な理解がみられた。しかし、(キ)の公共の福祉についての論述では、23%と正しい表現が不十分であった。

「民主主義と日本の政治」については、選挙制度、国会、内閣などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的には一応の理解はみられた。しかし、(エ)の内閣の仕事についての理解は、やや不十分であり、国会と内閣の仕事の違いが正しく理解できていない傾向がみられた。国会と内閣の仕事の違いを確認することが必要である。

「司法権の独立と裁判」については、裁判の種類、三審制、裁判員制度や司法権の独立などについて資料を活用し、正しく判断し、理解しているかをみることをねらいとして出題した。全体的に十分な理解がみられるが、(エ)の国民審査についてはやや正答率が低く、17%が選挙と答えていた。

全体を通して、基本的な知識は身に付けているが、資料の読み取りから表現することが今後の課題である。例えば、既習知識や資料から読み取ったことを使って自分の考えを表現することを、どの単元でも繰り返し、表現する機会をさらに増やし、思考力や表現力を高めていく必要があると考える。

3. 経年観察およびその考察

学年	経年変化の視点	趣旨	実施年度			考察
第1学年	世界各地で築かれた文明とその特色の理解	知・技	H29	H30	R1	H29は文明で使用された文字、H30は文明の名称と地図上の位置を問う出題である。どちらも4割以上が誤答である。R1は文明の特色を問う出題である。4大文明の理解は「世界の歴史を背景に」学習を進める社会科歴史的分野の初めに位置する。文明の特色について、その地域の環境等と関連付けて理解することが求められる。
			問1 (ウ)	問1 (ウ)	問1 (イ)	
			50%	59%	66%	
地図を正しく読み取り、条件に応じて適切に考え判断	思・判・表	H29	H30	R1	H29は手紙文から都市の季節や位置について読み取り、地図の位置と関連付けて考え、判断する問題である。H30は2種類の地図を読み取り、関連付けて判断する問題である。R1は地図の特色を考え適切な説明文を判断する問題である。地図を正しく読み取り、そこから条件に応じて考え、判断する力が求められる。	
			問6 (オ)	問5 (オ)		問5 (カ)
			48%	65%		74%
緯度・経度の読み取りに基づく思考・判断	思・判・表	H29	H30	R1	H29はある地点、H30はサンフランシスコ、R1はブエノスアイレスの緯度・経度を、地図や与えられた条件を関連付けて考え、判断する問題である。東経・西経の読み間違いの誤答選択率がH30は46%、R1は30%であった。本初子午線を軸にした東経・西経の読み取りを常に確認することが求められる。	
			問6 (イ)	問5 (工)		問5 (ウ)
			52%	31%		42%
第2学年	ヨーロッパ人來航の背景とその影響の理解	知・技	H29	H30	R1	H29は説明文に人名の穴埋め、H30は大航海時代に活躍した人物を選択、R1はコロンブス一行の航路を地図から選択する問題である。H29はコロンブスとマゼランを選択する問題であり、約半数が誤答であった。R1はマゼランの航路を選択する誤答が25%であった。新航路の開拓における人物名と業績、その変遷の理解が求められる。
			問2 (ウ)	問2 (ウ)	問2 (ウ)	
			54%	66%	49%	
同時代の世界と日本の事象について相互の関連等に着目して判断	思・判・表	H29	H30	R1	H29は江戸時代の日本と世界の動き、H30は室町幕府成立期の周辺国(琉球王国建国)を選択する問題、R1は江戸時代の日本と同時期のアメリカの様子を判断する問題である。同時期の日本と周辺国、世界の動きを年表等で確認したり、事象の関連を考えたりする活動が求められる。	
			問4 (イ)	問1 (工)		問4 (ア)
			51%	19%		34%
雨温図の読み取りと都市の特色を関連付けて考え判断	思・判・表	H29	H30	R1	H29は雨温図の特色を読み取り都市を選択、H30はブエノスアイレスの雨温図を選択、R1はシドニーの雨温図を選択する問題である。雨温図の情報の読み取りと、設問や地図の情報を関連付けて考えることに課題がある。南半球と北半球の違いや各地の気候の様子を関連付けて、その都市の特色を考える活動が求められる。	
			問6 (ア)	問5 (キ)		問6 (オ)
			43%	21%		31%
第3学年	人間の尊重について、基本的人権を中心とした理解と、法の意義の理解	知・技	H29	H30	R1	H29は生活保護受給者のクーラー所有について、H30はプロ野球のストライキについて、R1は基本的人権について出題した。社会権は近年の課題である「労働や雇用」「少子高齢化」「教育を受ける権利」「個人情報保護」等に関わるため、身の回りの事象やニュース等と関連付けて理解することが求められる。
			問1 (オ)	問1 (カ)	問1 (イ)	
			66%	56%	73%	
戦後日本の国際社会復帰にかかわる思考・判断	思・判・表	H29	H30	R1	H29は日ソ共同宣言と同年のできごと、H30は国際連合に復帰した年に国交を結んだ国を問う問題、R1は日ソ共同宣言の大まかな時期を問う問題である。戦後の歴史を世界の動きの中でとらえることや、現在の政治の動きと関連付けて考えることが求められる。	
			問7 (オ)	問7 (工)		問7 (工)
			52%	59%		39%
地域調査の手法における地理的技能	知・技	H29	H30	R1	H29、H30、R1ともに、地形図上の長さから実際の長さを求める問題である。地図上の長さを実際の長さについて、縮尺を正しく捉え、地図の情報の読み取りを行うことが求められる。	
			問10 (イ)	問10 (イ)		問10 (イ)
			76%	75%		83%

4. 授業改善に向けて

新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善が必要とされている。そのためには単元を通した授業構想が重要になる。単元を見通すような課題を設定し、その課題を追究する学習を行うことで、学習内容のつながりを意識し、最終的には、自分から主体的に学習課題を追究、解決することができるように促していきたい。

(1) 知識・技能に関する問題について

歴史的分野については、全体的に文化や産業に関わる内容についての理解が不十分であった。特に室町時代の農村と江戸時代の農村の様子を混同していることが多く見られた。それぞれの時代の文化の特徴について、様々な資料を通して具体的にイメージできるように指導することが求められる。また、戦後の歴史についての理解がやや不十分であった。特に冷戦期の世界と日本のつながりを意識した授業を展開したい。

地理的分野については、毎年出題されている緯度・経度の問題の正答率が、昨年度と比較して10%以上上がった。さらに改善するために、普段の授業でも積極的に地図帳や地球儀を使い、確実に定着させたい。また、2年生で出題されている領域についての理解は、やや不十分であった。領域や領土については、地理だけでなく、歴史や公民でも繰り返し確認して、確実な内容の定着ができるよう指導に取り組んでいきたい。

公民的分野については、全体的に一応の理解が見られた。「基本的人権」を問う問題の理解は十分であった。普段の授業で、様々な事例を通して、知識を確実に理解することができているので、継続して取り組んでいきたい。

(2) 思考・判断・表現に関する問題について

歴史的分野については、歴史的な出来事を並べ替える問題の理解が不十分であった。特に幕末の歴史の流れを理解する問題では、昨年度と比較して、正答率が10%以上下がった。歴史の大きな流れを理解できるように指導していきたい。また、承久の乱の影響についての記述問題では、理解が不十分であった。普段の授業において、歴史的な出来事の因果関係と影響について、つながりを考えさせながら授業を展開することが求められる。

地理的分野については、毎年出題されている南半球の雨温図を読み取る問題の正答率が、昨年度と比較して、10%の増加が見られた。しかし、北半球の温帯の雨温図を誤答として43%が選択していた。シドニーが温帯であること、南半球と北半球で季節が逆になること、理解が不十分である。授業では、写真や映像を使い、具体的に南半球の気候が理解できるように工夫していきたい。

公民的分野については、全体的に一応の理解が見られた。「公共の福祉」についての説明では、無答率も高く、理解が不十分であった。授業の中で積極的に今日的な話題を取り上げ、社会的な問題について「自分はどう考えるか」「どう対処すべきか」を自らの言葉で表現する時間を確保したい。

(3) 全体を通して

昨年度と比較して、全ての学年で記述式の正答率が低下した。特に1年の地理の記述では、30%以上正答率が下がった。また、3年の公民の記述も25%以上正答率が下がった。記述の無答率も高い傾向が見られた。改善策として、授業の中で発達段階に応じて「文章で表現する」時間を設定してほしい。資料から読み取れる事柄を書き出す・ある事象が起こった理由を考えて文章でまとめる、ある社会問題についての自分の意見を発表するなど、様々な場面で指導して行くことが必要である。

地理的分野に関しては、様々な統計資料の情報を取捨選択し、まとめ、内容について説明できるように指導していきたい。

歴史的分野に関しては、歴史的な出来事の影響によってどのように社会が変化したかを理解することが必要である。歴史のつながりを意識して、歴史の大きな流れを理解できるように指導していきたい。

公民的分野に関しては、公共の福祉の概念の理解が不十分であった。実際の事例を多く取り扱い、授業で学習した内容の知識を使い、問題を解決できるように指導していきたい。